



馬印青梅情報 2026年第1号

2026年3月12日発行



和歌山の梅の状況

【蕾】着蕾（ちやくらい）数は、例年に比べ、平年並みか、やや少なくなっています。今後、開花、受粉、果実肥大、生理落下などの要素があり、最終的に実として収穫されるのは10%前後です。気温、風速、降水量等の気象条件に大きく左右される為現時点で明確な予測は出来ません。

【開花状況】主力の南高の開花始めは1月30日と平年と比べ早くなりましたが、その後の寒波の影響により満開期は2月13日からと平年並みとなりました。

【出荷見通し】開花始めの天候は不安定な状況が続きましたが、満開期以降の気温は高く天候が安定しました。今後、暖かく穏やかな気候が続けば、本年産の作柄に期待が出来ます。但し、養蜂業者からのミツバチの箱仕入が平年の6割程度にとどまった為、受粉が良好に進まず、収穫数に影響が出る可能性があります。

【写真】3月9日撮影。（みなべ町）

青梅収穫情報判断の参考

中日本冰糖(株)調査

年度	結果樹面積 (ha)	梅収穫量 (t)	冰糖出荷高 (t)	気象情勢				満開時期						備考	
				温暖○ 寒冷◎				和歌山県			群馬県				
				1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	1月	2月	3月		
2017年	15,100	86,800	13,690	◎	◎	○	◎		中旬					中旬	不作型
2018年	14,800	112,400	15,008	◎	◎	○	○		下旬					中旬	豊作型
2019年	14,500	88,100	14,899	○	○	◎	◎		中旬					上旬	不作型
2020年	14,100	71,110	13,444	○	○	◎	◎		上旬					上旬	不作型
2021年	13,800	104,600	15,460	◎	○	○	○		中旬					中旬	豊作型
2022年	13,500	96,600	14,752	○	○	○	◎		下旬					中旬	不作型
2023年	13,200	95,000	13,924	○	○	○	○		中旬					中旬	不作型
2024年	12,900	51,600	11,701	○	○	○	○	下旬						上旬	不作型
2025年	12,500	73,900	11,664	◎	◎	○	○				上旬			中旬	不作型
2026年				◎	○					中旬				中旬	



梅がすごい！色々な効果

【老化防止】
梅の抗酸化成分が活性酸素を抑え、細胞の老化を防ぐ。

【抗菌・抗ウイルス作用】
梅のクエン酸や、ポリフェノールが菌の増殖を抑え、食中毒予防に役立つ。

【消化促進・整腸作用】
唾液と消化液を促し腸内環境を整え、便秘改善に役立つ。

今後とも馬印の冰糖糖をよろしくお願ひします。

中日本冰糖株式会社

URL : <https://nakahyo.co.jp/>

Instagramアカウント nakanipponhyoto



あったかい
うれしいね~)



梅の受粉とミツバチの関係

梅は自家受粉出来ず蜂に手伝ってもらわなければなりません。その為、蜂の活性が梅の受粉に大きな影響を与えます。

気温12度以上、風速3m以下で雨が降っていない状況だと蜂が活発に活動すると言われており、開花後の気候が大きく関わってきます。

実は蜂側にもメリットがあります。花の少ない早春でも花粉や蜜を得られ、女王蜂の産卵や働き蜂の活動を活発にさせることができます。

梅とミツバチは持ちつ持たれつ、切っても切れない仲なのです。